

ホームページを制作する皆様へ

この資料は、フリーランスでホームページ（Webサイト）制作事業を展開する「スタジオもづや」が、ホームページ制作を業者に依頼しようとする方々に対して、今後留意すべき事柄としてまとめたものです。

これは本スタジオへ誘導する目的ではなく、**プロの目線を通してホームページでの情報発信の素晴らしさを広く知っていただきたい**という思いを込めています。

1 制作業者をどう選べばいいか

一般的にホームページ制作は大きく二つの業者に分かれます。

1つ目が、当スタジオのような個人で経営しているスタジオ。2つ目がWeb制作会社と呼ばれる会社組織で運営している形態の2種です。

そして、同じホームページを依頼しても、経費積算の見積もり額は大きく異なる傾向があります。

一般的には、Web制作会社の見積もりは高くなり、個人経営のスタジオは安くなる傾向にあります。その差はサイトの規模が大きくなればなるほど広がり、場合によっては額が1桁変わることもあります。

なぜそのようなことが起こるかという、ホームページ制作はページの質に凝れば凝るほど工数（人の手によって作業する時間単価）が上がることと、Web制作会社のような大きな組織では、制作の分業化が進んでいることから、作業に携わる専門家が増えるという現象が起きるからです。

制作における一般的な作業フローは以下ようになります。

- 1 ヒアリング（どんなサイトにしたいのか、ターゲットはどんな層か、などの聞き取り）
- ↓
- 2 情報設計（ライティング、サイトマップ制作）
- ↓
- 3 ワイヤフレーム制作（サイトの設計図）
- ↓
- 4 デザインカンプの制作（実際の見たと同じデザインを明示します）
- ↓
- 5 コーディング（インターネットサーバー上で動く様にコードを書きます）
- ↓
- 6 テスト（閉じられたネット環境で動作を確認します）
- ↓
- 7 本番移行（納品）

ざっくり言ってもこれだけの工程を踏むことになり、制作会社では工程ごとに携わる技術者が代わります（全体をコーディネートするディレクターという人がいて最初から最後までお客様と関わる専門家がいます）。

こうした、分業制を取るメリットは、それぞれにエキスパートがいるために、工程ごとの質が担保され、結果的に良質なWebサイトができるということです。

しかし、その分料金も跳ね上がることになります。

一方、フリーランスの個人スタジオの場合、ほぼ一人でこれらの工程を請け負うため、上記1～7の作業工程が圧縮され、価格が安くなるということです。

安くなる分、一人でこなす作業には限界があり、大規模なサイト制作は不可能ですし、制作会社の品質に比べると、見劣りする場合があります（個人の能力に左右されます）。

それでも、フリーランスに委託するメリットは金額以外に次のような利点があります。

- ・コンセプトが伝わりやすい（依頼者のイメージに近いものができる）
- ・修正などへ柔軟に対応できる
- ・サイト全体に温かみがある（制作者の思いが出てくる）

作業を一人で完遂するという事は、コンセプトがブレずに依頼者のイメージに近いものができるということです。

これが制作会社の場合、ヒアリング者とデザイナーで情報共有が不十分だと「こんなはずではなかった・・・」ということも往々にしておこり、修正をしようとしてもタイミングがズレるともう何もできないということになる場合もあります。

高いお金をだして、イメージと違うサイトになってしまうことは悲劇というしかありません。

このような悲劇を招かないためにも、予算とサイトの規模をよく精査して、どちらの業者を選べばいいかを検討する必要があります。

※ 最近では、作業工程を圧縮する手段として、コーディング作業を省力化するシステムを導入する会社やフリーランスも多くなりました。当スタジオでもWordPressのSWELLというテーマをシステムに組み込んで制作しています。

2 サイト制作の目的を明確にしてみましょう

Webサイトをつくりたいという場合、**どんな目的でページをつくるのかを明確にしておいた方が良い**と思います。

例)

- ・店舗開業のため、見込み客にアプローチしたい（カフェやラーメン店など）
- ・名刺がわりに、自分やお店をアピールしたい（お医者さんや弁護士の方など）

- ・同じ趣味を持つ仲間づくりをしたい（スポーツチーム、サークルのサイト）
- ・会社の経営情報を公開し、採用募集に繋がりたい（コーポレートサイト）
- ・学校のカリキュラムや活動を紹介し生徒募集に繋がりたい（学校サイト）
- ・日々の活動を日記のように綴りたい（ブログサイト）

ちなみに、当スタジオで制作した面白い試みとして、これまでにはなかった、特定の相手への感謝を伝える色紙のようなメッセージサイトもつくっています。

Thanks Nakai Project

<https://thanksnakai.moz-ya.com>

SNSやメールで一つのURLを贈ることで、感謝を伝えられるそんな素敵なサイトになりました。

これからのWebサイトではこのような情報発信の方法が増えてくるのかもしれません。

3 Webサイトは育てていくもの（CMSの選定を確実に）

10年ほど前までのWebサイトは「つくって終わり」ということが一般的でした。

それは、サイトの更新そのものに多大なコストがかかっていたため、制作後に予算を用意していなかったということがあったからです。

制作後のコストまで計上するのは今でも理解を得られないことがあることから、最近では制作費を無料にして、長期の更新契約を結ぶことで制作コストをペイする制作会社も現れてきました。いわば、ホームページ制作のサブスクリプションモデルといえます。

このように、Webサイトはつくってからが大切で、その維持には一定の労力を払う必要があります。

最近ではCMS（コンテンツ・マネージメント・システム）というものをベースにサイトがつくられるようになり、更新コストは一気に下がってきました。

つまり、**つくった後は自分たちで記事を更新してサイトを育てていく**というモデルができてきたということです。

お店であれば、お知らせで新メニューを紹介したり、お休みの連絡をしたり、会社であれば新着情報を載せたり。

学校などでは、日々の活動をブログとして掲載したり、部活動の状況や大会結果をアップしたり。

それまで一回一回記事の更新を業者に委託してお金を払ってやってもらっていたことが、**運営者の手によってできるようになった**ということです。

おすすめはWordPress(ワードプレス)

世の中には様々なCMSが混在していますが、一番のおすすめはWordPress(ワードプレス)です。ワードプレスは全世界で運用されているフリーウェアのCMSで、全世界の40%のWebサイトがWordPressでできているといわれています。
アメリカではホワイトハウスのWebサイトもワードプレスです。

国内では他にもMovableTypeやDrupalなどもありますが、それらはほとんどが10%未満の使用にとどまっており、ワードプレス一強という状態です。
(公共機関ではNetCommonsやConnect-CMSなど公的機関で開発したCMSがありますが、使い勝手や表現力の総合力で全世界で開発者協力しているワードプレスには及びません)

SWELLを導入している理由

当スタジオでは、ワードプレスのシステムの上にSWELLという有料テーマを採用してサイトを制作しています。

<https://swell-theme.com/>

テーマというのは、ワードプレスを導入すると必ずついてくるもので、実際に多くのテーマが無料・有料問わず出回っております。

Web制作会社では、前述の7つの工程の中でデザイン工程が完了すると、オリジナルで案件ごとにテーマを制作して納品するのが通常です(実はこの作業が制作費を上げている一因でもあるのですが)。

しかしながら、サイトを見る側からすれば、それがどんなテーマかということは全くわからない状態ですし、わかったところで意味のないことでもあります。

また、必ずしもオリジナルのテーマがSEOやデザインの面で優れているとは限らないのです(私もオリジナルのテーマを開発していますし、制作会社との提携でその会社開発テーマで制作もしていますが、正直微妙に感じる事が多くあります)。

SWELLの優れている点は、そうしたオリジナルテーマの弱点であるSEOやデザイン性を汎用的な機能でうまくカバーしている点です。

デザインでいえば、100点にはならないけれど、80点のレベルには達するといったところでしょうか。

そのような理由で、フリーランスの制作者はオリジナルテーマよりも有料テーマをカスタマイズして使って、デザインを担保しながらコストを下げるということをやっているわけです。

どちらがいいとは一概にいえませんので、やはり予算と規模を鑑みて判断してもらうしかないと思います。

以上、ざっと触れてまいりましたが、多くの人に親しまれるWebサイトをぜひつくっていただきたいと思いますところでは。